

京丹後市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

京丹後市の新たな教育・人材育成の在り方に関する 検討会事業

事業の経過・背景・課題

京丹後市では、就学前から中学校卒業までの10年間を見通した「保幼小中一貫教育」を基礎に、地域素材（人、環境、文化、産業）を取り入れた探究的な学習「丹後学」をはじめ、Sea Labo、プログラミング教育、AIアプリの導入など特色ある教育活動を実施しているが、スポット的な取組となっている。

これらの取組が一過性のものではなく、社会の変化に沿った体系的な教育活動としていく必要がある。

取組内容

交付実績額： 445 千円

○「京丹後市の新たな教育・人材育成の在り方に関する検討会」を設置

・これまでの様々な取組を基礎としつつ、Society5.0に対応した体系的な教育活動となるよう、教育関係者をはじめ地元産業界、外部有識者の知見踏まえ、（１）～（３）について検討を進める

- （１）地域資源を織り込んだSociety5.0に対応する教育内容
- （２）教育効果と地域の付加価値を最大化するシームレスな制度の在り方
- （３）地域・産業界と連携した教育・人材育成の在り方 等

〔検討会各回議題〕

令和５年４月 論点整理

令和５年６月 教育内容・制度の在り方について

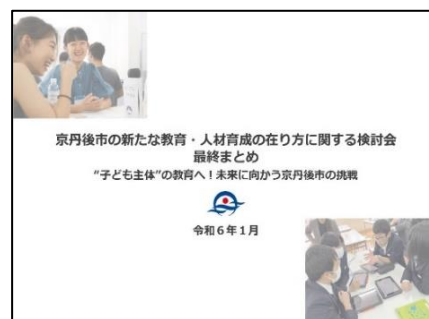
令和５年７月 教育制度の在り方について

令和５年８月 中間まとめ（案）について

令和５年10月 子どもたちへのアンケート結果について

令和６年１月 最終まとめ（案）について

※令和６年１月22日総合教育会議において「最終まとめ」を報告



事業の成果・今後の展望等

具体的な施策として、学びの変革に向けた「丹後学」の見直しやICTを活用した遠隔教育特例校制度の活用、「子ども主体」の学び舎の再設計に向けた空間デザインの見直しや働き方改革、学びのボーダレス化に向けた中高連携の促進や制度の在り方の検討、地域まるごと化に向けた学校・地域・企業のプラットフォーム構築などが提示され、京丹後市が目指すべき教育・人材育成の方向性が示された。

検討会の成果を、令和６年度に見直す予定の教育振興計画及び教育大綱における施策に落とし込み、「学びのタクト（イニシアティブ）を子どもへ手わたしていく教育」を目指し、体系的な教育活動を実践する。

問い合わせ先

京丹後市教育委員会学校教育課（0772-69-0620）